

第4回（仮称）地域活性化発信交流拠点整備計画策定検討委員会 議事録

1. 日 時：令和7年12月25日（木）午前10時00分 ～ 午前11時30分
2. 場 所：三芳町役場5階501会議室
3. 出席者：八木信行委員、伊藤徹哉委員、宮田佳律委員、有村誠委員、鈴木徹委員
岡崎優（オブザーバー）、中島豪誠（オブザーバー）、
林伊佐雄（オブザーバー）
事務局 三芳町 神森総合調整幹 道路交通課 若林課長
古寺主幹 金子主事
受託事業者 三井共同建設コンサルタント株式会社
4. 傍聴の可否について
検討委員会の傍聴を可とする。傍聴者 8名
5. 議 事：（1）第3回検討委員会の振り返り
（2）配置計画について
（3）概算事業費について
（4）事業採算性について
（5）事業企画について
（6）整備効果について
（7）事業スケジュールについて
（8）その他
6. 議事内容
【議事（1）第3回検討委員会について】
第3回検討委員会について、説明し、質疑や意見の有無を確認。
・特になし

【議事（2）配置計画について】
 - ・情報コーナーの面積を大幅に縮小しているが、具体的にどのような機能を想定し、なぜ減らしたのか。
→情報コーナーは、機能をサインージ等へ集約・スリム化し、キッズスペースの活動面積を確保した。
 - ・情報コーナー内のコミュニティスペースは道の駅の必須要件か。
→必須ではない。他事例の利用実態に合わせて見直した。
 - ・ベビーコーナーは道の駅の必須要件か。目的外使用への懸念があるため配置の見直し検討が望ましい。
→ベビーコーナーは必須要件であり、24時間開放する必要がある。

【議事（３）概算事業費について】

- ・概算事業費縮減について、これまでの「分棟案」に対し提示された「合築案」のメリット・デメリットはなにか。
→合築により、トイレや事務室、ホールなど共用部の省スペース化で基礎面積が減り約２億円の削減が可能だが、２階への誘客に工夫が必要となる。エレベーターはバリアフリー基準に基づき設置する。
- ・合築の場合、地域振興施設（２）の雑木林へつながる連動性の確保は可能か。
→概ね機能は確保可能であり、可能な限り対応する。
- ・合築の場合、面積減少により、２階の余ったスペースをテラスや太陽光発電スペースにするなど、合築ならではの付加価値も検討していただきたい。
→レストランを２階に配置するため、２階に余剰スペースは発生しない想定である。
- ・施設の一体感やコストメリットから合築を軸に検討すべきである。
→合築案を軸に進め、次回、分棟案との比較資料（図面等）を提示する。

【議事（４）事業採算性について】

- ・以前は「前面道路の交通量」のみで推計していたが、今回は「駐車台数」を変数に加えることにより、「道が混んでいても駐車場が満杯なら入れない」という実態を考慮したモデルとなっており、推計モデルの妥当性は十分にある。
- ・営業時間について、実際は物販施設と飲食施設を分けてもいいのではないか。
- ・開業後２０年間経過し陳腐化した際は、リニューアルが重要である。減価償却をターゲットとして、２０年後の採算性などを記載すると住民などにとって安全材料になると考える。

【議事（５）事業企画について】

- ・イベント案に共通して大切なのは、ストーリー性である。落葉掃き体験などを皮切りに、堆肥を活用した野菜の栽培やライブクッキング、食事まで一連の流れになるとよい。
- ・発信力のある SNS 等で PR を継続しないと、イベント集客が不振となる懸念もある。
- ・提示されたイベントが道の駅単体か町全体のものかにより波及効果が異なる。町内の周遊性を担保すると思う。
- ・世界農業遺産（武蔵野の落ち葉堆肥農法）は、首都圏で唯一の貴重な資源である。ストーリー性を持って発信することが重要である。社会・経済・環境の３つの側面から、それぞれ地域住民、都心からの来訪者、世界という対象を意識して発信するシナリオを構築していくことが望ましい。

【議事（６）整備効果について】

- ・地域住民にとっては社会的に期待される波及効果が重要である。こちらを現実化することが望ましい。
- ・防災機能等に活用可能な補助金があれば、資料に追加するとよい。
→第２世代交付金の活用を考えているが、該当があれば資料への追加する。

【議事（７）事業スケジュールについて】

- ・令和 12 年度供用開始予定に対し、設計短縮の可能性はあるか。
→通常は設計・実施に各 1 年を要する。

【議事（８）について】

- ・今後のスケジュールについて、第 5 回検討委員会は令和 8 年 2 月 6 日（金）を予定している。

以上